

母性看護学実習Ⅰ	3年・前期	1単位1週間	教授 堀金 幸栄 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210803

1. 授業のねらい・概要

妊産婦とその家族を対象に、個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進、健康問題や健康上問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養う。

2. 学修の到達目標

1. 妊娠期、分娩期の看護と看護技術について理解できる。
2. 妊娠期の母子の健康状態を評価することができる。
3. 妊産婦に必要な看護について理解を深めることができる。
4. 専門職としての態度を養うことができる。

3. 授業の進め方

実習要項参照

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習期間：令和5年5月～7月の間で実習を行う。
2. 実習施設：横田マタニティーホスピタル
3. 実習内容：実習要項参照
4. 実習前学習：知識・技術確認試験を実施する。
5. 実習後学習：実習での学びを実習記録にまとめる。

5. 成績評価の方法・基準

5分の4以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、知識・技術確認試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識確認試験は、それぞれ60%以上得点すること。

6. テキスト・参考文献

教科書：①小林康江 他：ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践（最新版），メディカ出版。

②荒木奈緒 他：ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術（最新版），メディカ出版。

参考書：講義で配布した資料，その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として，妊娠期の母体の変化と胎児の発育に関する課題を完成させて学習しておくこと。講義で配布した資料で基準値など覚えておくこと。

Google classroomの配信動画を繰り返し視聴して，必要な看護技術の手技を確実に覚えること。臨地実習開始前までに，必要な看護技術を1時間以上練習して実習に臨むこと。

8. 受講上の留意事項

先修条件：母性看護学概論，母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された事前学習課題は，教員が内容を確認して返却する。内容の不備なものは再提出を求める。ただし，実習記録物は返却しない。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における助産師としての実務経験を活かして，実習の指導を行う。